

玄人の皆さんへ

ABA を専門とする方、上級者の先生方へ

この度は「河村式」シリーズのプログラムをお手に取って頂き、誠にありがとうございます。本書は応用行動分析学(ABA: Applied Behavior Analysis)に基づく各種研究をベースに開発された教材です。

本シリーズは教育現場、特に小学校の特別支援学級の担任の教材準備時間や指導上払うことができる労力、初任者等が集中的に配置される学校がある等の制約的な前提として開発しています。そのため、従来なされてきたABAに基づく指導法とは異なる様相を示す部分があります。

・ 中枢は「記録用紙」

「河村式」シリーズには、末尾またはダウンロード教材として必ず記録用紙が付いており、これによってデータの測定、それに基づく指導の個別化が可能な構成となっております。本来ABAに基づく介入では個体の反応を測定し、その結果を元に反応を予想する、という流れを辿るため、このデータ測定に基づく意思決定が本プログラムをABAたらしめていると言っても過言ではありません。データに基づき、本シリーズに含まれるプリントに効果が無いのであれば、別の教材を使うことも推奨されます。

・ 教師のレスポンスコスト

ただし、使用の手引き内にデータ測定をあまり強いるような書き方はしておりません。これは教師側のレスポンスコスト、すなわち負荷への配慮が必要なためです。残念ながら教材や指導法の選択者は児童や保護者ではなく、教師です。現状の小学校において、担任が全児童に対して全時間の授業、オーダーメイド教材を自作できる余力はありません。使用されなければ児童に対して機能していない教示ということになってしまいます。そこで、極力教師に負担を掛けず、継続的に使用が可能な範囲で有効な教材の修正を反復した結果、到達したのが本シリーズの「全員プリントとカードで指導」「可能な場合のみオプションとしてデータ測定」という構えなのです。

・ 特別支援学校と小学校の差

特別支援学校の知的障害部門では自作教材の作成が教師のスキルの一つとして評価されていますが、小学校では自作教材は「凝る人が、好きな教科について作る」というイメージもまだ残り、検定教科書と市販教材の併用がポピュラーな指導スタイルです。

また、特別支援学校と比較して小学校では特別支援学級であっても授業の進行ペースが速く、同じ教材を使用可能な期間が短いという点でも違いが見られます。つまり、じっくり時間をかけて特定のスキルに関する教材を作っても、1～2日で習得して次の指導に向かってしまうのです。そこで、本シリーズでは大部分を共通した教材としつつ、「進行ペースだけは最低限きちんと個別化をする」というスタイルを推奨しています。

・ 選択のコストを避ける

本シリーズは上述のような制約的な状況を前提としているため、「教師が多数の教材からプリントを選ぶ」という負荷を避け、書籍内には最低限の教材のみを含めています。しかしながらそれだけでは当然児童によって適不適が生じます。そこで、指導が上手く行かない場合の手数を増加させ、それによって個別最適化に結び付けようという意図から、サポート教材をWEB上にアップしています。学識・経験豊富な皆様からは、ぜひ推奨教材等を教えて頂ければと思います。(河村個人サイトまでご連絡ください)